



[大岡信の足跡をたどる20190217](#)



[大岡信の足跡をたどる20190217](#)

三島に蒔かれた言葉の種が芽吹き、花開くのはきっとこれから。
 大岡信さんの蒔いたことばの種Vol.3—三島の水辺散策と誌をたのしむ—
 三島に生まれた詩人・大岡信さん。
 その作品には、「水都・三島」で生まれた感性がキラキラとひかっています。
 2月16日の大岡さんの誕生日にちなみ、生家をはじめ、大岡信ゆかりの場所を訪ねながら、水を愛した詩人のことばをあじわって見ませんかと案内が有り、同行取材をさせて頂きました。コースは2つ有り、コース1の大岡信の幼少期をたどる～三島田町・中郷温泉地コース～。
 2月17日9:30～12:00に伊豆箱根鉄道三島田町駅集合。
 写真左は伊豆箱根鉄道・田町駅、明治の頃は「みしまち駅」。案内人の福田淑子さん(三島市郷土資料館学芸員)の説明を受ける参加者。
 写真右は江戸時代に年貢米を集めたお蔵場跡、現在は日本キリスト教団三島教会会堂。
 中田町の生家である大岡博家の周辺は、かつて一面の水田だった。現在、住宅街となり、一般の方が住まれている。
 当時周辺のあちこちで富士山の湧水が噴出していました。



[大岡信の足跡をたどる20190217](#)



[大岡信の足跡をたどる20190217](#)

幼少時代に川遊びした御殿側の中流に架かっている奈良橋で案内人の説明を受ける(写真左)。そこに、大岡信と幼少時代に一緒に遊んだ幼友達だった人が出てきて、思い出話をして頂きました。大岡信を身近に感じた場面でした。



[大岡信の足跡をたどる20190217](#)



[大岡信の足跡をたどる20190217](#)

次に大岡信が通った三島市立南小学校(旧名三島町立南国民学校)。ここに、大岡信の詩が飾って有った。外の窓から見えると紹介され、詩をメモに取る。

題名『双眸』
たとえば雲に
翔ぶ鳥の
わかれては遊ぶ
空の道
かな

写真左は南小学校内で説明を受ける参加者。右は案内人のもう一人中村童子さん(元大岡信ことば館学芸員)



[大岡信の足跡をたどる20190217](#)



[大岡信の足跡をたどる20190217](#)

国道の奈良橋の歩道橋を渡り、今日のゴール中郷温水地へ向かう。長く三島に住みながら、温水地の意味が分からなかったので、「何故温水地とついているのですか？」と質問をしました。富士山の湧き水は温度が低く、そのまま灌漑用水として適さないので源兵衛川を堰き止めて造られた温水ダム。昭和28(1953)年に完成。南の中郷地区の水田の水源で有り、市民の釣り場であった。今は野鳥のいる公園になっています。写真左の白サギ、右の黒サギ。



[大岡信の足跡をたどる20190217](#)

公園には温水地で見られる鳥の写真と名前が紹介されている。温水地に流れる源兵衛川には、三島の鳥「カワセミ」を撮影しようと、大きな望遠カメラを持って走りまわっていた人がいました。また、この公園は逆さ富士の名所として有名です。



[大岡信の足跡をたどる20190217](#)



[大岡信の足跡をたどる20190217](#)

温水地の芝で一休み。残念ながら今日は富士山には雲がかかっていました(写真左)。休憩の後、大岡信の詩の朗読を学芸員の中村さんがしてくれました。昨日の誕生日にちなんで『誕生

祭』

また水甕が空に傾く季節がきた

五十年以上昔の・・・

と朗読して解説をしてくださいました。

『三島町奈良橋回想』『螢火府』参加者も朗読に挑戦しました。

『人は山河を背負う』の詩の後半部分の表現で質問をしました。

富士山は 背中にずっしり重い

巨大な 暗い

清らかな 水の塊り

美しい富士山にいつも元気をもらった私には「暗い」と言う表現が解釈できないと質問しました。

案内人や参加者から色々な解釈が出て盛り上がりました。

夜の富士山は暗い。富士山の雪解け水は地面の中、そこは暗い。明るさの表現ではなく偉大さを表現している等々活発な意見交換が有り、参加者と楽しい一時を過ごしました。

コース2は大岡信の青少年期をたどる～三嶋大社・東海道～3月23日(土)9:30～12:00

参加希望の方は、ことばのたね実行委員会まで申し込み下さい。

e-mail:kotobanotane@gmail.com

案内人の皆さん、主催者の皆さん御苦勞様でした。そして有難う御座いました。

取材:東部・田方地区生きがい特派員 加藤 孝